

自然・文化人類学

責任者・コーディネーター	生物学科 松政 正俊 教授		
担当講座・学科(分野)	生物学科、生理学講座統合生理学分野、教養教育センター		
担当教員	松政 正俊 教授、中隋 克己教授、佐藤 洋一 非常勤講師、 安達 登 非常勤講師、柄内 新 非常勤講師、坂上 和弘 非常勤講師、 飛内 悠子 非常勤講師、大沼 仁美 非常勤講師		
対象学年	1	区分・時間数	講義 14 コマ 21 時間
期間	前期		演習 0 コマ 0 時間
			実習 0 コマ 0 時間

・学修方針（講義概要等）

大学初年次には、多様な現象、ものの見方、考え方を知ることが肝要である。人類学は人類に関する総合的な学問領域であり、「ヒト」を自然科学的な視点から考える自然人類学、ならびに「人間」の文化的・社会的側面を考える文化人類学・社会人類学を内包する。これらの各領域に関する知見が同一の科目で扱われることは少ないが、ヒト・人間を対象とする医療系学生が両者について学ぶことは意義あることと思われる。本科目では、自然人類学の諸側面および文化人類学の初歩を学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

ヒトの特徴を、比較生物学、解剖学、遺伝学、そして自然人類学的視点から捉え、解説する講義を聞き、次いで文化人類学の初歩として、文化・社会と人間の生活、性、病気等との関連を学ぶ。これらにより、生物としての「ヒト」と独自の文化をもつ「人間」についての理解を深め、医療人に要求される多様なものの見方を身につけることができる。ほぼ毎回の授業においてレスポンスカードを記入し、その内容がフィードバックされることなどを通して、他者の考えと自分の理解の相違点・共通点を認識し、能動的に学ぶ姿勢を養うことができる。（ディプロマポリシー：1, 2, 4, 6,）

・到達目標 (SBO)

1. 自然人類学とは、どのような学問領域か説明できる。
2. 自然人類学と生物学との関係を概説できる。
3. ヒトが進化の過程で獲得した象徴的機能を列挙できる。
4. 言語変化が起きる文化的小および自然科学的な要因・条件等を列挙し、分類できる。
5. 言語変化の事例から、その変化の要因・条件を推測することができる。
6. 人骨の特徴から人類をながめて分類するという方法を知り、その妥当性について考察できる。
7. 日本列島で発見された古人骨の特徴を概説し、日本人の小進化を考えることができる。
8. DNA 多型性とは何か説明できる。
9. Y 染色体 DNA とミトコンドリア DNA の特異性を説明できる。
10. 寿命の生物学的意義を、ヒトを再生系として捉えて説明できる。
11. 病気を、進化という視点を取り入れて考察できる。
12. 文化人類学とは、どのような学問領域か説明できる。
13. 身の回りの分類や分割と文化・社会との関わりを概説できる。
14. 性別と文化・社会との関わりを理解し、概説できる。
15. 性別分業の多様性と時代による変化を理解し、概説できる。
16. 通過儀礼とは何か、その特徴や意味を説明できる。
17. 「子ども」、「大人」、「老人」という区分と文化や社会との関わりを概説できる。
18. 「生」、「病」、「死」と文化や社会との関わりを概説できる。
19. 「病気」や「障害」のとらえ方と文化・社会との関わりを概説できる。
20. 医療と人類学の知見の関わる場所を知り、概説できる。

・講義日程

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
4/17	水	2	生物学科	松政 正俊 教授	人類学と生物学・イントロダクション：生物学から見たヒト・人間（「アドバンスド生物」と合同）/自然人類学とは、どのような学問領域か説明できる。自然人類学および文化人類学と生物学との関係を概説できる。生物としてのヒトの特徴を考えることができる。
4/24	水	2	教養教育センター	大沼仁美 非常勤講師	言語の変化という視点からみた人類：言語の変化を事例とともに考察する。/言語変化が起きる文化的小および自然科学的な要因・条件等を列挙し、分類できる。言語変化の事例から、その変化の要因・条件を推測することができる。

5/8	水	2	教養教育センター	佐藤 洋一 非常勤講師	骨から見た人類: 骨標本をもとに、人種を分けていた古典的な形態人類学を紹介するとともに、疾病が骨組織に与えた影響から、当時の文明を考察する。(岩手医大名誉教授・佐藤先生) / 人骨の特徴から人類をながめて分類するという方法を知り、その妥当性について考察できる。
5/15	水	2	統合生理学分野	中俣 克己 教授	中枢神経系と筋骨格系の関わりにおいて、ヒトを他の哺乳動物から区別する特徴について学ぶ。/ ヒトが進化の過程で獲得した象徴的機能を列挙できる。
5/22	水	2	教養教育センター 生物学科	坂上 和弘 非常勤講師 松政 正俊 教授	日本人の小進化: 身体からみた『日本人』の歴史 (国立科学博物館・坂上先生) (「アドバンスト生物と合同」) / 日本列島で発見された古人骨の研究にもとづいた、日本人の身体的変遷に関する最新の知見にふれ、日本人の小進化を考えることができる。
5/29	水	2	教養教育センター 生物学科	安達 登 非常勤講師 松政 正俊 教授	DNA 多型からみた人類学 (山梨大・安達先生) (「アドバンスト生物」と合同) / DNA 多型性とは何か説明できる。Y 染色体 DNA とミトコンドリア DNA の特異性を説明できる。
6/5	水	1	教養教育センター 生物学科	柄内 新 非常勤講師 松政 正俊 教授	ヒトはなぜ死ぬのか (北大・柄内先生) (「アドバンスト生物」と合同): 動物にはなぜ寿命があるのか、寿命の生物学的意義、再生系としてのヒト、幹細胞、ヒトは何歳まで生きられるか。/ 寿命の生物学的意義を、ヒトを再生系として捉えて説明できる。
6/5	水	2	教養教育センター 生物学科	柄内 新 非常勤講師 松政 正俊 教授	進化から見た病気 (北大・柄内先生) (「アドバンスト生物」と合同): 進化と病気、免疫のはたらき、風邪はなぜ治るのか、ヒトと病原体の進化競争、抗生物質はなぜ効かなくなるのか、文明病/ 病気を、進化という視点を取り入れて考察できる。
6/12	水	2	教養教育センター	飛内 悠子 非常勤講師	科学と文化人類学～性の区分を考える: 生物としての「男」と「女」、文化・社会における「男」と「女」、「男らしさ」と「女らしさ」、トランスジェンダー (盛岡大学・飛内先生) / 性別と文化・社会との関わりを理解し、概説できる。性別分業の多様性と時代による変化を理解し、概説できる。

6/19	水	2	教養教育センター 生物学科	飛内 悠子 非常勤講師 松政 正俊 教授	人生と通過儀礼Ⅰ: 「子ども」と「大人」の区別、「老人」とは?/通過儀礼とは何か、その特徴や意味を説明できる。「子ども」、「大人」、「老人」という区分と文化や社会との関わりを概説できる。
6/26	水	2	教養教育センター 生物学科	飛内 悠子 非常勤講師 松政 正俊 教授	人生と通過儀礼Ⅱ: 社会・文化における「死」、生者と「死後」のつながり/「死」と文化や社会との関わりを概説できる。
7/3	水	2	教養教育センター 生物学科	飛内 悠子 非常勤講師 松政 正俊 教授	「生」「老」「病」「死」と文化・社会Ⅰ / 「生」「老」「病」「死」と文化や社会との関わりを概説できる。
7/10	水	2	教養教育センター 生物学科	飛内 悠子 非常勤講師 松政 正俊 教授	「生」「老」「病」「死」と文化・社会Ⅱ / 「生」「老」「病」「死」と文化や社会との関わりを概説できる。
7/17	水	2	教養教育センター 生物学科	飛内 悠子 非常勤講師 松政 正俊 教授	医療と文化・社会における「正常」と「異常」の区分: 「健康」と「病氣」・「障害」のとらえ方/「病氣」や「障害」のとらえ方と文化・社会との関わりを概説できる。医療と人類学の知見の関わることを知り、概説できる。

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	精神と自然—生きた世界の認識論	グレゴリー・ベイトソン (佐藤良明 訳)	岩波文庫 (青 N604-1)	2022
参	精神の生態学へ (上) (中) (下)	グレゴリー・ベイトソン (佐藤良明 訳)	岩波文庫 (青 N604-2~4)	2023
参	文化人類学 [カレッジ版] (第4版)	波平恵美子 編著	医学書院	2021
参	みんなが手話で話した島	ノーラ・エングロース (佐野正信 訳)	ハヤカワ・ノンフィクション文庫	2022
参	進化医学—一人への進化が生んだ疾患	井村裕夫	羊土社	2012

参	進化から見た病気―「ダーウィン医学」のすすめ (ブルーボックス)	梶内 新	講談社	2009
参	ヒトを理解するための生物学	八杉貞雄	裳華房	2021
推	隠喩としての病い エイズとその隠喩	スーザン・ソントグ (富山太佳夫訳)	みすず書房	2012
推	アダムのかい	ブライアン・サイクス (大野昌子訳)	ヴィレッジ ボックス	2006
推	イブの7人の娘たち	ブライアン・サイクス (大野昌子訳)	ヴィレッジ ボックス	2006

・成績評価方法

レスポンスカードへの記載内容から、講義内容への理解度（90%程度）に加えて講義への関心・意欲・態度（10%程度）を評価し、総合する。なお、講義への関心・意欲・態度を評価するためのレスポンスカードの記載は第1、8、14回の講義終了時にWebClassを利用して実施する予定である。

・特記事項・その他

シラバスに記載されている各回の授業内容を確認し、参考書・レジメ等を用いて予習・復習を行うこと。各授業に対する事前学習（予習）と事後学習（復習）の時間はそれぞれ45分および30分程度を要する。

授業の最後に記述してもらったレスポンスカードについては、WebClassを利用してテーマやキーワードを提示するなどし、事前学習に組み込むことができるようにする。記述内容については当該授業中ないしは関連の授業やWebClassのコースで解説等を行うとともに、学生間や教員とのディスカッション等の機会を設ける。

感染症の拡大等が懸念される場合は、学外非常勤講師による講義はオンライン授業（リアルタイムでの講義配信を予定）にて実施する。また、感染拡大が深刻になった場合には、その他の講義もオンラインで実施するが、その場合もWebClass等を利用した質疑応答やディスカッションを行うなど出来るだけ双方向のやり取りを行うこととする。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン (Mac Mini MC270J/A)	1	講義資料作成・保管、他
講義	複合機一式 (Canon・Image Runner iR2230F)	1	講義・実習等の資料印刷